

Rotary
Club of Nagoya



名古屋ロータリークラブ 創立100周年記念式典



開会挨拶で登壇する内藤弘康会長

名古屋ロータリークラブ 100年の節目、そして次の100年へ

社会奉仕活動を行う経営者団体『名古屋ロータリークラブ』が創立100周年を迎え、記念式典が令和7年2月4日、名古屋観光ホテル（那古の間）で盛大に開催された。1924年に東京、大阪に次いで日本で3番目にできた名古屋ロータリークラブは、創立以来、「堅実」「信望」「持続」の三原則にそって種々の地域活動、奉仕活動を展開し今日に至る。式典には会員、来賓など約250人が参加し、記念講演など熱心に聞き入っていた。

内藤弘康会長挨拶

「伝統ある格調高いクラブとして」

式典では、オープニング映像とロータリーソング「奉仕の理想」の合唱のあと、名古屋ロータリークラブの内藤弘康会長（リンナイ社長）が登壇。

「名古屋ロータリークラブは今を去る100年前の1924年（大正13年）の12月18日、伊藤次郎左衛門氏を初代会長にチャーターメンバー25名で発足。翌年2月に国際ロータリーへの加盟が承認され、同年4月に正式に一員となりました。当時は定款や細則などすべてを原文で勉強され、難解な英文熟語が多いロータリー用語を相手に大変な苦労があったと想像されます」と発足当時の先輩諸氏の尽力の話から始まり、第二次世界大戦で世界情勢が悪化し国際ロータリーの理念が全うできない中1940年（昭和15年）に一旦脱退したことや、戦後すぐ

に東京、大阪に次いで3番目に国際ロータリーに登録が認められた混迷期を紹介。

また、内藤会長は「大正末期に誕生した当クラブは昭和、平成を駆け抜け、そして令和の時代へと着実に足取りを続けております。現在の会員数は174名、通算会合回数は約3700回超え。先輩諸氏から受け継いだ使命と活動は滞りなく遂行できていると自負しております。次の100年を始動するにあたり、原点に立ち返るという意味も含めロータリーの使命を再確認したい」と決意を述べ「創立100周年の節目に私たち一同、この祝典に列席することができた巡り合わせに心から感謝します」と伝え、「創立100周年事業として名城公園に植樹した桜が立派に成長し、艶やかな花を咲かせ、新たに迎える次の100年が平和に輝き続けるよう、伝統ある格調高いクラブとして一層の発展を目指し、努力する事を誓います」と締め括った。